

「一般社団法人日本フライングディスク協会中長期基本計画」に関するご意見への回答（2020年5月30日）

「中長期基本計画 2020-2024」に対するご意見	本協会回答
<p>トップ以外の社会人の底上げ施策を是非。学生上位との交流を深める施策や中位社会人をターゲットにした練習会の開催等。後は練習場所の確保の施策も是非。</p>	<p>今年度より、学生選手と社会人選手の交流機会という位置付けを持った大会として「JAPAN ULTIMATE OPEN」を開催いたします。練習場所に関しましては、現在協会事業をご支援いただいている企業と連携してグラウンド管理者への働きかけを行っております。練習会に関しましては、上述の練習場所の確保策とも関係してくるため、こちらと合わせて検討いたします。</p>
<p>意見 1 P24の「誰にとっても安心・安全な競技環境づくり」という記載に対する施策として、競技団体への横断的な情報発信や支援・管理・統制等を追記することを提案します。</p> <p>提案理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生の勧誘時期にチラシや説明動画を公表することや、就職活動向けのpptなどの横断的な取り組みは競技団体に対して大きな支援となっていると感じており、継続して頂きたい。</li> <li>・コロナ対策に関する練習の自粛要請、グラウンド環境の整備、傷害保険などチーム運用の支援、グラウンド使用時のマナーなどについては、今後不利益を受けないためにも協会として支援・管理・統制して行くべきと考える。</li> </ul> <p>質問 1 P18のSOTGの理解・啓蒙とは何を指すのか教えて頂きたい。ルールには「各選手のフェアプレイに対する責任感の上に成り立っている」「試合中に審判としての役割も担っている選手が勝利を追求する情熱と自信のプレーを客観的に判断する冷静さを両立するための方法」と記載されており、SOTGが前提として必要なものであるという点については共感するが、前提として、本来減点法としてあるべきであるSOTGが、近年「自己紹介」「相手チームへの賞賛」「プレーに影響があるかどうか」などの曖昧かつ必要以上の、スピリットオブザゲームのゲームの部分を超えた部分の強要、すなわち「SOTGの拡大解釈」がはびこっていると感じる。拡大解釈を伴ったSOTGは知人同士の馴れ合いや慣習による判断を生み、新規参入の阻害にもなり得、また未経験者の理解を難しくするのではないかと危惧している。試合での採点方法は今回の論点ではないが、中長期的に見たSOTGの普及について考えをお聞かせ願いたい。</p>	<p>&lt;ご意見への回答&gt;</p> <p>新入生の勧誘活動や選手の就職活動の支援など、一部すでに行っている取組みに関しましては継続的に実施する方向でおります。社会情勢を踏まえた関係団体の管理・統制に関しましては、非常に重要な視点であることから、本計画への掲載及び実施方法、体制の構築について改めて理事会にて検討いたします。</p> <p>&lt;ご質問への回答&gt;</p> <p>「SOTGの理解・啓蒙」とは、公式競技規則に示されているスピリット・オブ・ザ・ゲームの定義や世界フライングディスク連盟の見解等を広く普及していくことを意味しています。主に、スピリット・オブ・ザ・ゲームスコアにおける基準点(2点)に対する理解を全国統一的なものにしていくことが目的です。</p> <p>中長期的に見たSOTGの普及に関しましては、全国統一的な基準でSOTGに則った試合進行がなされることを目的に、関連する取組みを実施していく考えです。SOTGに絶対的な解は存在しないことから、本協会が「SOTGを体現する行動」について選手やチームに対して指導、啓蒙することはありません。ご質問内容にある「SOTGの拡大解釈」に関しましては、SOTGの体現は選手の行動に依存するものであり、解釈の広さ等も対戦するチーム同士のコミュニケーションを通じて調整を図るものと考えていますが、この点はSOTGを考えるうえで重要なテーマであるため、本協会SOTG委員会を中心に世界フライングディスク連盟とも連携しながら継続的に議論を重ねてまいります。</p>

「中長期基本計画 2020-2024」に対するご意見	本協会回答
<p>1. 協会の収入の大部分を占める「事業収入」「会費・登録料」と支出部の「事業費」「管理費」の早急な改革が必要です。</p> <p>アクションプラン①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ターゲット：大学卒業後に会員を退会する会員</li> <li>・施策：会員であることの価値向上を目的とした対策・施策</li> <li>・参考：社会貢献型活動と協働、イベントの主催等</li> </ul> <p>アクションプラン②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ターゲット：小学生～高校生までの若年層</li> <li>・施策：若年層を対象とした会員獲得の施策実施</li> <li>・参考：指導者の育成、対象会員をターゲットとした競技大会の運営</li> </ul> <p>2. 現在の各大会の運営は会員・大会参加者に対し付加価値を生んでおらず、事業構造の改革が必要です。</p> <p>アクションプラン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ターゲット：競技大会に参加する会員、観客</li> <li>・施策：大会運営の外部委託、大会参加費以外の収入の拡大、大会参加費の値上げと価値の提供</li> </ul> <p>3. スタッフの活動内容を付加価値を生む事業や活動に集中するなど、活動内容を変更する必要があります。</p> <p>アクションプラン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ターゲット：協会組織内の人材</li> <li>・施策：競技大会運営の外部委託等によるスタッフの負担軽減と付加価値作業の創出</li> </ul>	<p>会員数が増加している昨今の状況を踏まえますと、本協会の事業もよりターゲットを明確化していく必要があると認識しております。今回ご提案いただいた内容も踏まえつつ、現時点で本協会が抱えている課題を計画期間（2020～2024年度）中に解消できるよう、様々な取組みを実施してまいります。</p>
<p>①事業収入について</p> <p>事業収入を増やすために、大会参加費用等を増額するのは仕方ないと賛同するが、学生部門の費用の増額は考慮していただきたい。これ以上学生の負担を増やすのは競技への参入障壁を上げてしまう恐れがある。増額はまず社会人チームから増やしていくべきと考えます。</p> <p>②指導普及事業について</p> <p>普及が大事だが、普及において最もベースとなるべき「練習場所の確保」に関する内容が一切書かれていないのは疑問に感じる。現状、実業団チーム含めトップチームが小岩の河川敷の共有スペースで練習するしかなく、大学のグラウンドが使用できない学生チームは練習場所を探すのにも苦労している。アルティメットの知名度が上がっていけば、いずれは河川敷で練習していることに対する世間の厳しい目に晒されるのは時間の問題である。首都圏内のスポーツ施設を探し、協会が借り上げて各チームに有料で貸し出すような仕組みが必要と考える。練習場所の欠如が競技人口の増加の妨げになっていると思っております。</p>	<p>エントリー者数の規模を踏まえますと、社会人選手の割合が学生選手の割合よりも低いことから、社会人選手のエントリー費のみを増額しても収支が改善しないという現状があり、その点に関しましてご理解いただきたく存じます。しかし、学生選手の負担増加は決して最善策ではありませんので、継続的なコスト削減の結果として収支が改善した場合には学生選手のエントリー費を減額するなど、柔軟な運用を行ってまいります。</p> <p>多くの選手が河川敷等の公共空間を占拠してしまっていることは重大な課題であると認識しており、協会事業をご支援いただいている企業と連携してグラウンド管理者への働きかけを行っております。本計画には関連する取組みを掲載しておりませんが、今後も継続的に検討してまいります。</p>